

今の時代、我々日本人は平和な世の中を生きていると思う。ここで言う「平和」とは、国が戦争していないという意味である。しかし「戦争していないから」というだけで「平和」だと言い切れる訳ではない。「心の平和」という言葉があるように、衣食住が足りていても、どこか気持ちが悪いかでないことはある。私が考える、今の私たちが目指すべき平和とは、この「心の平和」である。そのために意識すべきことは、「流されない」ことだと思う。

「心の平和」には、社会の風潮が関わってくると思う。人々は世の中の雰囲気を感じ取り、明るい社会なら心も自然に穏やかになる。

現代社会の雰囲気特に影響与えると思うのが、インターネットで広まっていく多くの主張や意見である。

例えば事件が起きた時、それらの事件はニュース等を通じて私たちの耳に入り、人々の気分を害してしまう。このとき同時に、インターネット上では、事件に対する悲しみや怒り、思いやりなど様々な声も広まっていく。

このような声は二つの影響を及ぼす。一つ目はある意見の強さを強めること、二つ目はそれによって「考え方の流行」を作り出すということである。

誰かが意見を発すると、徐々にその意見に同調する声も多く出るようになっていく。その中で共通する考え

考え方の流行と心の平和

真和高等学校2年

小林 翠

方が広がっていき、考え方に流行ができるようだ。その中で自分が意見を持つ時気をつけなければならないのが、無意識のうちに大衆に合わせた「意見」、つまり流行に乗っただけの「意見」を言いがちなことだ。心から他の意見に賛成し自分の思考に取り入れたのなら良いが、多数派の強いインパクトを持つ声に流され、自分の意見のように述べることはないだろうか。あたかも自分の意見であるように錯覚しがちだが、それは単なる便乗である。

初めは個々の意見だったものも、数を増し「考え方の流行」となると「社会の風潮」となってフィードバックし人々の気持ちにも影響する。仮にネガティブな考えが流行し社会の雰囲気となったら、それは心の平和から離れていく状況となりうる。また社会が偏った方向に向かったとき、それに気が付く人は少なくなってしまう。

私の祖母は生前、日本が太平洋戦争に突入していったときの世の中のことを、私の母に話していたそうだ。

「世の中がだんだん、少しずつ変わっていくから、誰も気がつかなくなった。」

他人の意見に流されたり便乗したりするのではなく、お互いの意見の違いを正確に認識すること、流行の考え方の是非を冷静に考えること。これが私の考える平和の保ち方、そして「心の平和」を築く方法である。